

平成 27 年 12 月 24 日

桜井市議会議長 藤井 孝博 様

文教厚生委員会

委員長 工藤 行義

桜井市議会文教厚生委員会所属議員行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1 期 日 平成 27 年 10 月 15 日（木）～16 日（金）

2 派遣委員 (委員長) 工藤 行義 (副委員長) 大西 亘
(委 員) 高谷 二三男 (委 員) 札辻 輝巳
(委 員) 岡田 光司 (委 員) 吉田 忠雄
(委 員) 金山 成樹

藤井 孝博 議長

以上 8 名

3 視 察 地

<平成 27 年 10 月 15 日（木）>

- ・愛知県東海市大田町後田 20 番地の 1
東海市結婚応援センター
- ・愛知県高浜市青木町 4 丁目 1 番地 2
高浜市役所・いきいき広場

<平成 27 年 10 月 16 日（金）>

愛知県一宮市栄 3 丁目 1 番 2 号
尾張一宮駅前ビル 一宮市立中央図書館

4 調査の概要

別紙視察報告書のとおり

I 概要

桜井市議会文教厚生委員会所属議員行政視察

1 期 日 平成 27 年 10 月 15 日（木）～16 日（金）

2 派遣委員 (委員長) 工藤 行義 (副委員長) 大西 亘
(委員) 高谷 二三男 (委員) 札辻 輝巳
(委員) 岡田 光司 (委員) 吉田 忠雄
(委員) 金山 成樹

(議長) 藤井 孝博

以上 8 名

3 視察地

- ・ 愛知県東海市大田町後田 20 番地の 1
東海市結婚応援センター
- ・ 愛知県高浜市青木町四丁目 1 番地 2
高浜市役所・いきいき広場（駅前）
- ・ 愛知県一宮市栄 3 丁目 1 番 2 号
尾張一宮駅前ビル
一宮市立中央図書館



4 視察目的

【東海市結婚応援センター】

少子化対策の前段階である未婚者支援対策について調査する。

【高浜市】

妊娠・出産包括支援事業の取組を調査する。

【一宮市】

地の利を活かした図書館運営について調査する。

5 視察事項

1 日目：○未婚者支援対策について

○妊娠・出産包括支援事業の取組について

2 日目：○駅前ビル内の“地の利”を生かした図書館運営について

本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行いました。

II 研修内容のまとめ

〔東海市の概要〕

知多半島の西北端に位置し、面積 43.43 Km²であり、西は伊勢湾に面し、北は名古屋市、東は大府市、東浦町、南は知多市に接している。名古屋市の中心地区まで約 15 km に位置し、中部圏最大の鉄鋼基地として臨海工業地帯を形成している一方、県内でも有数の生産量を誇る洋ランや全国有数のフキの産地という都市近郊農業地帯を形成している。また、名古屋港や中部国際空港へのアクセスにも優れ、伊勢湾岸自動車道などの広域交通の結節点という特性を生かした都市基盤の整備や子育て支援策などへの積極的な取り組みにより平成 27 年 7 月には人口 11 万人に到達するなど発展を続けている。

【研修内容】

「未婚者支援対策事業の取り組みについて」

- ・結婚応援センターにて、事業の概要、経緯、事業実績について説明を受けた後、質疑応答を行う。

<結婚応援センター>

設立の経緯・・・平成 21 年 4 月

市長が、30 代男性の未婚率を現状の 39.9%（全国平均 39.0%）から 10 ポイント低い 30% に下げることが東海市次世代育成支援行動計画に設定。

平成 21 年 7 月

未婚者支援対策協議会を設置。

平成 21 年 8 月～平成 22 年 1 月

出会いづくり分科会と結婚力向上分科会の 2 つの分科会を設置し、具体的事業を検討。（協議会 4 回、分科会 3 回）

平成 22 年 2 月

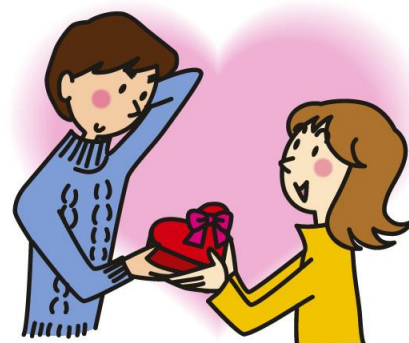
東海市未婚者支援対策調査報告書を市長へ提出。3 月に、「子育てと結婚を応援するまち東海市」を都市宣言の一つとして制定。

平成 23 年 3 月

東海市未婚者支援対策提案書を市長へ提出。

平成 23 年 4 月 1 日

東海市結婚応援センター開設（東海市民交流プラザ内）



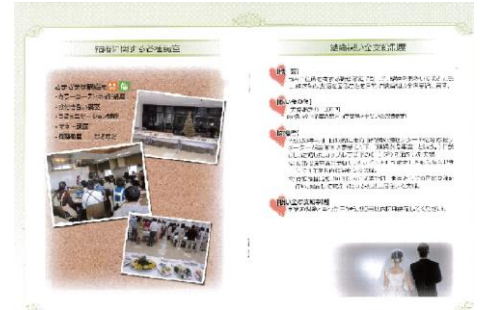
事業費

平成21年度事業 5,800 千円

- <内訳> 未婚者支援対策調査事業（委託料 5,180 千円）
- 未婚者支援対策協議会設置事業（事業費 620 千円）

平成22年度事業 17,241 千円

- <内訳> 未婚者支援フォーラム開催事業、
- 結婚力向上セミナー開催事業、
- 出会いの場創出事業、未婚者支援
- 対策協議会設置事業、結婚応援情
- 報発信事業、ホームページの開設
- 準備、ガイドブック等作成



平成23年度事業→6,115 千円、平成24年度事業→5,321 千円
 平成25年度事業→5,263 千円、平成26年度事業→5,171 千円
 平成27年度事業→5,159 千円

- 事業内容・・・
- 結婚活動に関するホームページの運営
 - 結婚活動に関するメールマガジンの配信
 - 結婚活動に関する各種相談
 - 未婚者の出会いの場の創出に関する事業
 - 結婚に関する各種講座の運営
 - 結婚応援サポーターの募集及び運営補助
 - 新婚家庭に対する経済的支援に関する事業
 - 結婚に対するイメージの向上に関する事業
 - その他未婚者の支援に関する事業

結婚祝い金支給事業・・・結婚応援事業に参加し結婚したカップルで、継続して東海市に3ヶ月以上居住した夫婦に10万円支給する。

<支給実績> 平成24年度 → 3組 平成25年度 → 2組
 平成26年度 → 3組 平成27年度 → 3組（予定）

未婚率の比較（2005年 全国・愛知県・東海市）

%	全国（男）	全国（女）	愛知県（男）	愛知県（女）	東海市（男）	東海市（女）
25～29歳	71.4	59.0	71.8	55.8	69.7	47.1
30～34歳	47.1	32.0	45.7	27.0	46.1	22.2
35～39歳	30.0	18.4	29.1	15.1	32.4	13.4

実施状況(平成26年度)

<委託事業> 「婚活応援セミナー&交流会」(NPO花婿学校)

参加人数	セミナー	41人	
	交流会	72人	
カップル数	11組		他 1事業

<自主事業> ○本人向け講座(6回)

「ECO・婚(社会奉仕婚活)」

参加人数	男性14名	女性15名	
(うち 市内在住	16名)		他

○親向け講座(1回)

「親も婚活〜ご縁づくりと代理お見合い」

参加人数	男親2名	女親16名	
------	------	-------	--

<サポーター事業>

サポーター登録数 47 (平成27年7月31日現在)

本人向け講座22回 参加人数: 314人 カップル数: 8組

連絡会 年2回開催

※結婚応援サポーター

結婚を希望する未婚者の結婚活動を様々な方法で応援する個人、企業及び団体。
出会いの機会の提供等をサポート(イベントや講座の企画・運営)する。

【主な質疑応答(概要)】

問: 近隣市町村在住が対象になるので、参加者が固定されていないか。

答: 男性は同じ方の応募が多く、固定されている傾向にあり、どちらかというとな性を募集するという、新しい方にも参加してもらえるように抽選によって参加者を決定したり、新規の方限定にしたり、女性向けの事業にするなどの工夫をしている。

問: 事業の数値目標を設定しているか。

答: 出会いの場の創出が目的なので、設定していない。

問: 市の事業なので税金を投入していることになりが市民からの批判的な声はないか。

答: 特になく、反対に行政が行う事業であるので安心感をもっていただいている。



問：事業に至った経緯は。

答：出会いの場が少ないという声もあったことから

問：平成21年度に調査事業を行われているが、どのような内容か。

答：「20～30歳代の市民の生活・意識に関するアンケート調査（平成21年）」

目的：20～30歳代の結婚や子育てについての考え方、生活の状況などを把握し、結婚支援施策等の基礎資料とする。

対象：東海市内在住の20～30歳代の市民3,000名

世帯の同居などを勘案し、できるだけ未婚者に届くように抽出方法を工夫した結果、回答者の92.6%未婚者。

回収：940票（31.3%） 回答者の92.6%が未婚者。

（未婚者支援対策調査報告書参考）

問：結婚に対する意識改革に関連した事業や小中学生に対する結婚教育は含まれているのか。

答：メディアや国や県と連携での結婚に対するイメージアップにとどまっている状況である。

問：結婚が成立した方への就職の斡旋等しているか。

答：別の担当部署では対応している。

【所 感】

NPOへの委託事業、行政の自主事業、サポーターによる事業と多種多様な出会いの場を創出しており、非常に先進的で効果的な事業であった。桜井市では未着手の事業であるので、切れ目のない妊娠・出産・子育て支援の前段階の支援として多いに導入すべき事業であると考えている。



～東海市結婚応援センターホームページ～

〔高浜市の概要〕

日本のほぼ中央にある愛知県三河平野の南西部に位置し、中部地方の中心都市である名古屋市から南東へ25kmのところであり、古くから窯業の町として栄え、三州瓦は全国1位のシェアを占めている。最近では、トヨタ系輸送機器関連産業を中心に発展している。

【研修内容】

「妊娠・出産包括支援事業の取組について」

○高浜版ネウボラ

1. 親子支援と継続支援

・「こども発達センター」(平成23年4月1日設置)

<目的>

障がいや病気の有無にかかわらず、子ども達の輝く

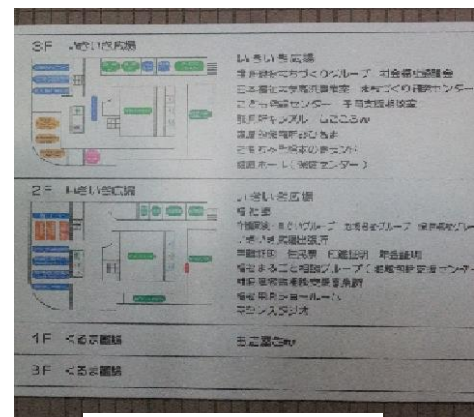
未来の実現を目指し、それぞれ

の子ども達のライフステージで関わる支援者が連携を図り、切れ目なく見守り、支援する場

→ こども発達センター内に「子育て世代包括支援センター」を設置



こども発達センター



センター内配置案内板



各相談窓口

2. 妊娠・出産期の課題と取組

課題と解決策

課 題	解 決 策	平成26年度	平成27年度
1. 妊娠中に相談支援の場がない	妊娠期からの相談支援体制の充実	マイ保健師（小学校区毎）と統括コーディネーターの配置	妊娠届出時からマイ保健師が個別支援計画を作成
	◎現行の妊娠期保健事業の見直し ◎新規事業の検討	◎妊婦教室の内容の変更 ◎母子健康手帳交付教室とマイ保健師の個別面談を実施	NPOによる訪問型相談支援等の開始
2. 4ヶ月児健診から1歳6か月児健診の相談支援の場	ポピュレーションアプローチとして相談支援	1歳バースデー訪問の実施	1歳バースデー訪問の継続
3. 保護者が必要とするサービス	◎産褥期の母親の心身と育児を支援の場の確保 ◎父親を支援する場の設定	産後デイケアサービスの実施	◎産後ケア入院費用の助成 ◎4ヶ月児健診でのパパ教室の実施
4. 保健以外の妊娠出産期の支援の検討	関係機関による当市の課題の共有	母子保健医療ネットワーク会議の実施	母子保健医療ネットワーク会議の継続

3. 具体的な取組みと目指す姿

マイ保健師（12名）・・・○小学校区ごと（5地区）に2～3名の保健師で担当

○子育てを見守る身近な相談相手

1歳バースデー訪問

<目的> 孤立家庭や育児に困り感がある家庭を発見し、マイ保健師の相談支援等につなげる

<内容> ・1歳児の家庭に保健師が訪問し、予防接種接種暦や子育て状況、家庭環境を把握する

・予防接種のすすめ方、育児の方法やサービス情報を提供する

・継続支援が必要な場合は、マイ保健師の支援につなげる

<実績> 平成26年9月～平成27年2月

家庭訪問実施率 92.9% (209件)

うち、マイ保健師へつなぐ 7.1% (16件)

妊娠期からの切れ目ない支援 ～しあわせな子育て～

○高浜版ネウボラ 総合窓口「いきいき広場」強化

妊娠期から子育て期をマイ保健師がサポート

「どんなことでも相談ください」

○妊娠期から子育て～家族支援 切れ目ない支援

家族を継続して支える多職種・多機関連携

支援される人の情報を次につなげるしくみ

妊娠・出産包括支援事業 ～マイ保健師を中心とした妊

娠期からの継続した支援体制の構築～

<実施期間> 平成26年4月1日～

平成27年3月31日

<要国庫補助額> 2,360,000円

<事業実績>

○母子保健相談事業 (母子保健医療ネットワーク事業)

総事業費 139,920円 (国庫補助分全額)

- ・妊婦カルテの作成
- ・支援の必要度に応じた4つのモデルプランの作成
- ・ハイリスク家庭等具体的な支援が必要な家庭に対して「個別支援計画」を作成し、継続的に支援を行う。 → 個別支援計画作成数18件
- ・保健師間のケース会議開催回数 10回
- ・妊娠期から継続して支援する「マイ保健師」の配置
- ・母子保健医療ネットワーク会議の開催

○産前産後サポート事業 (パートナー型)

総事業費 1,381,272円 (国庫補助分全額)

- ・1歳バースデー訪問

1歳バースデー訪問 (乳児予防接種確認訪問) を行うことにより、点での確認である乳児家庭全戸訪問から線をつなげ、家庭と親子の確認、相談支援、情報提供そしてサービス利用

への一連の継続した支援を行った。 → 訪問実施件数 273件



いきいき広場のパンフレット



○産後ケア事業（デイサービス型・アウトリーチ型）

総事業費 3,200,000円（国庫補助分全額）

・産後デイサービス事業

市内の産婦人科医院において、空きベッドを確保し、日中のデイサービスを実施した。また、必要時には看護師等が助言、カウンセリングを行うこととした。

<事後評価>

産前産後サポート事業として実施した1歳バースデー訪問や子育て家庭のセーフティネットとして実施した産後デイサービス事業により、従来、当市の産前産後の支援において不足していたサービスをモデル事業を通して構築することができ、切れ目のない支援を行うことができた。特に保健師による1歳児の家庭訪問は母子の生活の現状を把握する上からも効果があった。

- <今後の計画>
- ・「子育て世代包括支援センター」の設置
 - ・「デイサービス型」の産後ケアから「宿泊型」への移行
 - ・「1歳バースデー訪問」の継続実施

【主な質疑応答（概要）】

問：市役所内ではなく、駅前にいきいき広場として拠点をもってこられた理由について。

答：平成8年に駅前再開発事業を実施、市の所有部分の活用のなかで福祉のワンストップサービスを行いたいということになり立地のよさもあって福祉部門をすべて配置した。

問：保健師の確保についてスムーズであったのか、困難であったのか。

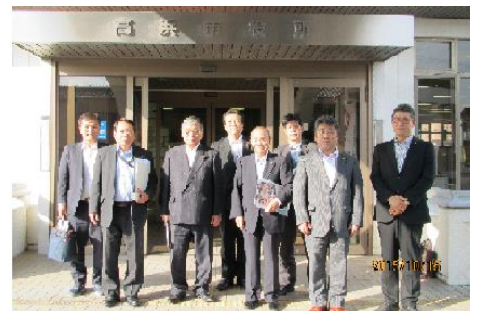
答：以前は母子、老人担当と分けていたが、あらゆる世代を支援できるようにしようということで各小学校区に保健師2～3名を配置し、その地区の子どもからお年よりまでの支援をするということにした。なり手が少ないため、退職後の保健師に依頼したり確保については苦勞している。

問：駅前に窓口を置くことで、利用者が増えた部門減った部門は何か。

答：急激な増加や減少はないが、ワンストップ化という部分については集約化は図られている。

【所 感】

各小学校区に2～3人の保健師を配置し、マイ保健師として切れ目のない支援体制であるため、保健師の確保が重要であるが、採用応募者が減少傾向であり、桜井市同様、苦勞されているようであった。駅前に福祉・教育拠点を整備することは市民サービスの向上に非常に効果的であると考えられることから、桜井駅南口エリアのまちづくりにも参考になるものと思われる。



〔一宮市の概要〕

愛知県の北西部にあり、名古屋市へ約 17km、岐阜市へ約 13km、とほぼ両市の中間に位置している。濃尾平野の中央にあり、古くから農耕が盛んに行われ、江戸時代から綿花の栽培が盛んとなり、農家の副業として綿織物の生産が行われるようになる。その後、毛織物の生産へと移行し、全国一の毛織物生産地帯へと発展した。昭和後期からは産業構造の多角化が進み、繊維産業を中心とする複合型産業都市へと変貌した。

また、中部経済圏における重要な交通拠点であり、名神高速道路や東海北陸自動車道が、名古屋と岐阜を結ぶ幹線道路の国道 22 号と市内で接続している。鉄道も市の中央を J R 東海道本線や名鉄本線が走っており、市中心部では鉄道の大規模な高架化等により市内交通の円滑化を図っている。こうした地の利を活かした工業団地も整備し、経済基盤の強化や雇用の拡大により、さらなる発展が期待される。

【研修内容】

「駅前ビル内の“地の利”を生かした図書館運営について」

＜尾張一宮駅前ビル（i-ビル）の位置づけ＞

市の玄関に位置する「一宮の新しい顔」として、鉄道、バスなどの交通結節点としての利便性を活かした利用しやすい施設である。また、中央図書館、中央子育て支援センター、市民活動支援センターなどの多様な機能を配置することにより、「市民活動・文化活動」、「歴史・文化の伝承」、「新たな市民文化の創造」などを目的とした交流・文化拠点として、都市機能・集客機能を強化した。さらに周辺の中心市街地の魅力を高めることで、多くの方が回遊し中心市街地全体が活性化することを目指している。



【主な施設構成】

- 中央公民館・中央子育て支援センター・市民活動支援センター・ビジネス支援センター・観光案内所
- シビックホール・シビックテラス・多目的ルーム・貸会議室・屋上庭園
- 商業施設
- 交番
- 駐車場 → 180台
- 駐輪場 → 162台

【工事費等】

平成24年11月1日 開館
総工費 約64.5億円



<中央図書館について> ～平成25年1月10日（木）午前9時開館～

豊島図書館の閉館(平成24年9月30日)から中央図書館の開館までの約3ヶ月間にて、豊島図書館所蔵の図書・CD・DVDなど約32万点に加え、オープンに備えて除籍を延期して蓄えた資料約6万点、新たに購入した絵本や児童書・一般書・雑誌などの8万点を加え、46万点の蔵書点数を備えた中央図書館として開館した。

図書館ネットワークの中核拠点として、専門的資料や地域資料の提供、多様なメディアを利用した高度で専門的なサービスの提供により、利用者の多様なニーズへの対応に努める。また、駅前立地という特性を活かし、講座・講演会・展示会などの主催によりにぎわいとふれあいの場、生涯学習の場としての機会を提供する

【施設面】

・エリア（3フロア）

5階 → 児童と親子

6、7階 → 一般利用者

- ・入口を5階と6階に設置。5階を児童向けフロアにすることにより、子どもの安全に配慮している。
- ・駅前とう立地条件を活かして、広範な利用者を対象とした情報の提供をはかり、中心市街地の活性化やにぎわいの創出に寄与している。
- ・本などにICタグを貼付、自動貸出機や自動化書庫の導入により貸し出し時間の短縮など利用者の利便性向上を図る。

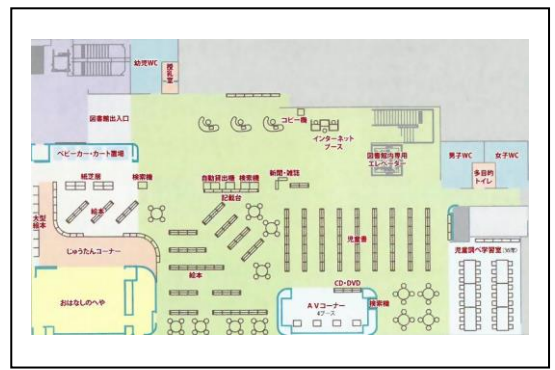


【主な施設構成】

延べ床面積	約 6,700 m ²	収蔵可能点数	約 60 万点
		蔵書点数	約 46 万点（開館時概数）

【利用席】 閲覧席 213席、学習室（5階）36席、学習室（6階）160席、多目的室①② 117席、インターネット席 22席、AVブース席 24席、持ち込みパソコン席 20席

【5階】 絵本等を取り揃え、子どもや親子が気兼ねなく本と親しめる空間となっている。靴をぬぎリラックスして絵本を読むことができる「じゅうたんコーナー」がある。「児童調べ学習室」では、子ども同士で調べものができる資料を取り揃えており、子どもたちの探究心を



を育む。子どもの視線を配慮した書架段数とし、フロアの配色にも優しさと楽しさを取り入れ、子どもたちがのびのびと本と親しめる空間を創造する。また、ボランティアとの協働により、定期的な読み聞かせ会等各種催しを開催している。

【6階】 一般利用者が出入りするメインフロアで、一般書・視聴覚資料・新聞・雑誌などがある。読みものや小説、趣味に関する資料などを中心に配架されており、「大活字本・点字本コーナー」や「ティーンズコーナー」等がある。「新聞・雑誌コーナー」のブラウジング席では窓の外をながめながらくつろいで読むことができる。

【7階】 一般書・参考図書・郷土資料などがあるフロアで、調査研究のためのエリアである。「ビジネス支援コーナー」や地場産業の繊維産業に関する資料を取り揃えた「せんいコーナー」がある。

【屋上】 閉架書庫として約 30 万冊の資料が収納可能であり、コンピューター操作により各階での保管・取り出しが可能である。

【運用面】 ・開館時間

午前 9 時～午後 9 時

→ 従来は午前 10 時～午後 6 時

・貸出対象

従来は隣接 9 市町村であった住所

要件を廃止し、氏名及び住所を明らかにできる方を対象とする。

・運用方法

直営（一部業務委託）。カウンター業務などの図書館運営業務の一部を、公募型プロポーザルで選定した業者に委託して運用する。



＜委託業者＞ (株)図書館流通センター

【他の図書館運営】 ・豊島図書館の閉館（平成24年9月30日）

閉館後の施設は、博物館事務局に管理移管し、繊維類を収蔵・展示し時期を限って公開することともに、考古資料や公文書資料等の収蔵施設としての利用を検討している。また別館1階については、引き続き移動図書館車の基地及び図書の団体エリアとしての利用の継続をしている。

- ・豊島図書館・中央図書館以外でも、3年間をかけて、市立図書館所蔵の図書資料（約80万点）にICタグを貼付した。平成24年10月には、尾西、木曾川、子ども文化広場等の各図書館において図書館システム機器・ソフトのバージョンアップを行い、ICタグを活用した自動貸出機等が稼動を開始している。

【主な質疑応答（概要）】

問：中央図書館ができることで、他の図書館の利用者は減っているのか。

答：大きな落ち込みはなく、減少気味のところがあるが、今のところ閉館の予定はない。

問：夏休みになると学生の勉強場と化してしまうのではないか

答：学習室を設けて一般利用と区別して支障がでないようにしている。

問：本を購入するときは行政だけで判断されているのか。

答：委託先（図書館流通センター）で選定後、行政がチェックしている。

【所感】

立地条件の良さを活かした駅前ビル開発は非常に参考になった。規模は違うが、駅前に福祉・教育拠点を整備することは、市民サービスの向上において効果的である。図書館は、学生の勉強場にもなるが、友人同士が隣合わせの席にならないように上手く工夫をして静かに勉強できる体制が図られている。桜井駅南口に教育拠点を整備するうえでも参考になる手法ではないかと思われる。

